

課題の分類：作物>夏畑作物>22>1-2-085-1										
ばれいしょ新品種候補										
「北育2号」の概要										
北見農業試験場 作物研究部 馬鈴しょ科										
1. 特性一覧表										
系統名	ばれいしょ「北育2号」			交配組合せ	アトランチック × ND860-2					
特性	<b>長所</b> 1) 早生の加工原料用で、ポテトチップ適性が優れる。 2) ジャガイモシストセンチュウ抵抗性。 3) そうか病抵抗性が“中”である。			<b>短所</b> 1) 上いも平均一個重が小さく、収量性はやや劣る。 2) 休眠は短い。						
採用県と普及見込み面積 北海道 100 ha										
調査場所	北見農試(育成地)			試験研究機関全箇所平均				現地試験全平均		
調査年次	平成11~15年			平成11~14年		ワセシロ供試年平均		平成12~14年		
項目	系統・品種名	北育2号	トヨシロ(対照)	ワセシロ(対照)	北育2号	トヨシロ(対照)	北育2号	ワセシロ(対照)	北育2号	トヨシロ(対照)
早晚性		早	中早	早						
終花期の茎長(cm)		47	51	52	50	56	50	60	57	64
枯凋期(月日)		9/6	9/9	9/3	8/31	9/4	8/31	8/28	8/28	8/30
上いも数(個/株)		10.2	9.1	8.2	11.9	10.1	12.0	9.5	10.4	9.2
上いも平均一個重(g)		88	110	116	84	102	82	109	87	102
中以上いも収量(kg/10a)		3,636	3,923	4,055	3,608	3,930	3,482	4,061	3,418	3,883
対標準比(%)		93	100	106	92	100	(86)	(100)	88	100
上いも収量(kg/10a)		4,147	4,245	4,292	4,351	4,429	4,258	4,421	4,103	4,351
対標準比(%)		98	100	101	98	100	(96)	(100)	94	100
でん粉価(%)		17.6	17.5	16.7	15.3	15.9	15.3	14.9	15.9	16.1
ポテトチップの品質*	チップカラー(アグト値)同評価	47.2	42.9	-	表 収穫後及び貯蔵後のポテトチップ品質 (北見農試、平成11~14年平均)					
塊茎の特性	形	球	扁球	扁球	品種 収穫後   6 貯蔵   同左・リコンディショニング後 及び 系統名 外観 アグト   外観 アグト   芽長 外観 アグト 〇値   〇値   mm   〇値					
	皮色	球	扁球	扁球	北育2号   39.2     14.2   59   17.3 トヨシロ   34.0     12.8   18   16.0 ワセシロ   31.6   ×   7.7   10   ×   10.4					
病害虫抵抗性***	ジャガイモシストセンチュウ	強(H1)	弱(h)	弱(h)	注) フライ油温180、2分。アグトロ値は、光質グリーン、粗砕で測定 評価は、 :良、 :やや良、 :中、 :やや不良(使用可能) ×:不良 調査 収穫後: 9月上~10月上旬、 6 貯蔵: 翌年1月中・下旬、 リコンディショニング後: 翌年2月上・中旬					
	疫病圃場抵抗性	弱	弱	弱						
	塊茎腐敗	やや強	やや弱	弱						
	Yモザイク病	弱	弱(中)	弱(中)						
	そうか病	中	弱	弱						
	粉状そうか病	やや弱	弱(中)	弱						

対標準比は「トヨシロ」比、()内は対「ワセシロ」比

\* ポテトチップの品質は北農研センターで調査。

\*\* 各農試の試験結果による。括弧内はばれいしょ種苗特性分類調査報告書(昭和56年)の分類による。

\*\*\* 特性検定試験等の成績による。

## 2. ばれいしょ「北育2号」の特記すべき特徴

ばれいしょ「北育2号」は早生の加工原料用系統で、収量性はやや劣るが、チップ品質が良く収穫直後から翌年1月まで間のチップカラーが「トヨシロ」並ないし優れる。ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち、そうか病抵抗性は「トヨシロ」より強い「中」で、塊茎腐敗抵抗性は「トヨシロ」より強い「やや強」である。

## 3. 北海道で優良品種に採用しようとする理由

加工食品用は、昭和50年代から需要が伸び始め、現在では道産ばれいしょの消費量の2割以上を占める。加工食品用で最も多くを占めるポテトチップ用の原料は、中早生の「トヨシロ」を主力として、早生の「ワセシロ」、中晩生の「農林1号」が用いられてきた。しかしこれらの品種は、貯蔵中にチップカラーを悪化させる還元糖が増加しやすいため、よりポテトチップ適性の高い品種が求められてきた。近年、長期低温貯蔵に向く「トヨシロ」並熟期の「ノースチップ」(平成15年,50ha)、「農林1号」並熟期の「スノーデン」(平成15年,800ha)が普及し、また同じく長期低温貯蔵に向く中晩生の「きたひめ」が優良品種(平成12年)となり普及が見込まれるが、ポテトチップの周年需要を満たすために早生のチップ用品種も望まれている。

加工食品用のばれいしょ作付けは十勝管内が全道の70%を占める大産地であり、網走管内も十勝に次ぐ産地として「トヨシロ」(1,300ha)を主体として、「スノーデン」(200ha)のほか、常呂・上湧別地区を中心に「ワセシロ」(70ha)が作付けされているが、当地区では品質面からチップ適性の高い早生品種の要望が大きい。また、網走管内はシストセンチュウの汚染拡大、そうか病の蔓延化等の問題も抱えている。

ばれいしょ「北育2号」は、「ワセシロ」並熟期の早生で、収穫時のチップカラーは「ワセシロ」や中早生の「トヨシロ」より優れ、収穫後の還元糖の増加が「ワセシロ」、「トヨシロ」より低い。また、収穫後から貯蔵中のチップカラーの劣化が少ない。また、「ワセシロ」の欠点であるチップ品質の悪さ、貯蔵性が劣る等の点を改良しており、チップ品質については実需者からも評価を得ている。

さらに、ばれいしょ「北育2号」はジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持ち、そうか病抵抗性が中程度であることから、これらの土壌病害虫発生の懸念のある地域での作付けが可能である。

以上のことから、「北育2号」を網走管内を主体としたポテトチップ原料用「ワセシロ」及び「トヨシロ」の一部に置き換えることにより、高品質原料の安定供給が可能となり、道産ばれいしょの振興に寄与するものと考えられる。

## 4. 普及見込み地帯

北海道の加工用ばれいしょ栽培地帯 100ha

図 普及見込み地帯における「北育2号」の「トヨシロ」、「ワセシロ」対比(%)

中以上も重(農試) (現地)  
育成場: H11~15、農試: H11~14、【】内「ワセシロ」比  
現地(「トヨシロ」比): H12~14の各平均( ): 単年度



## 5. 栽培上の注意

- (1) 肥大性がやや遅く小粒であることから、生育促進に努める。
- (2) 倒伏しやすい傾向にあるので、過繁茂や軟弱な地上部生育にならないよう施肥量に留意する。